

政策委員会・政策専門部会合同会議 開催



挨拶する連合福島 今野会長

連合福島は、この程5月13日（木）14時15分から約60名が参加し「2021年度政策委員会・政策専門部会合同会議」を開催した。冒頭、今野泰連合福島会長は『2021年度がスタートし、これに向けて国、県、市町村も裏付けとなる予算がすでに成立している。連合福島は次年度予算編成に向けた政策要求づくりを本日からスタートする。働く者のナショナルセンターとして賃金・労働条件の改善、同時に働く者の生活の向上のため制度政策要求をしっかりと作り上げることが重要な使命である。202

1年の県予算の把握と復興予算の分析をしっかりと行うため、今年も自治総研今井先生（福島大学元教授：以下今井先生）に講演をお願いした。今後の議論に活かしていただきたい。皆様からそれぞれ貴重なご意見、提言などを頂き、県をはじめ市町村等に提出をする。長丁場の取り組みとなるが、皆様のご理解とご協力をお願いする。』と挨拶した。



講演する 今井 照 先生

第一部の特別講演は、今井先生から「政策制度要求のために一県予算を読み解く」と題した講演をいただいた。内容は過去10年間の福島県予算ならびに2021年度福島県重点予算等のデータを分析。

「他県と比較し、県予算は地方交付税、国庫支出金、扶助費など大幅に減少している」、「特定目的基金の取り崩しは、目的に合致した支出の確認が必要。また、一般予算で支出すべき事業が復興枠で支出され

おり、復興予算を消化するための事業になっていないかの確認が重要。」「福島県は臨時交付金がどのように使われているのかはWeb上に公開していない。」との説明があった。その後質疑では、橋下徹県議会議員、高野光二県会議員からそれぞれ質問があった。

第二部は各専門部会毎に昨年度の要望書、回答書、予算書を確認、進め方について議論を行い、2021年度政策要求づくりがスタートした。



熱心に傾聴する参加者の皆さん